中国新聞

救急処置室 4月拡充

安佐市民病院

ベッド1床・医師2人増　夜間センターと連携

広島市は、安佐北区の安佐市民病院の救急処置室を拡充し、救急医療機能を強化する。既に改修工事に入っており、4月から運用する。3月下旬から同区可部で夜間急病センターを運営する安佐医師会（安佐南区）と連携。夜間の救急患者の受け入れで、症状に応じた役割分担を進める。（有岡英俊）

4月に拡充される安佐市民病院の救急処置室

改修工事は南館1階の救急処置室に併設する化学療法室を2階に移し、救急処置室を190平方㍍から約1・4倍の270平方㍍に拡張。処置ベッドを1床増やし3床にする。新たに患者の経過観察用のベッド2床を設置し、家族控室も設ける。救急医も2人増員して19人とする。総事業費は1億円。

同病院は、手術や入院が必要な患者を24時間体制で診療する2次救急病院。市北部や山県郡、安芸高田市などをエリアに、生命の危険がある重篤な患者にも対応する。昨年4月には集中治療室（ICU）を4床から8床に増やし、機能強化を進めた。

一方、昨年1年間に同病院が受け入れた救急患者数は1万2534人。このうち約75％の9388人が軽症で、8275人が救急車を使わず直接病院を訪れた。このため市消防局の救急車からの受け入れ要請に対応できなかった割合は32・2％に上った。

こうした状況から市と安佐医師会が「可部夜間急病センター」の開設を決定。3月22日から安佐北、安佐南区の開業医たちが交代で診療する。

夜間の軽症患者をセンターに分散し、同病院が入院治療や手術が必要な患者の受け入れ要請にできるだけ応える態勢をつくる構えだ。多幾山渉院長は「夜間急病センターと連携し、重篤な患者を一人でも多く受け入れる態勢にしたい」としている。

神石高原

産フェスタ

理も縁

広島市佐伯区湯来町と神石高原町油木の住民が特産品販売などを通じて交流するイベントが20日午前10時から、湯来町の市湯来交流体験センターである。地名が同じ「ゆき」で、ともにこんにゃくが名物の縁。湯来特産フェスティバルの一環で

こんにゃくのほか、湯来の田舎ずしや油木のエゴマの実などの特産品販売もある。湯来特産フェスティバルでは餅つき体験会や地元神楽団の公演がある。

センターを指定管理する木段村サービス（東京）

ペラ弦楽団の演奏で